

若竹

第五十号



愛媛県神道青年会再発足三十五周年事業 愛媛の伝統文化IN道後

愛媛県神道青年会

事務局

〒790-0934

松山市居相二丁目2番1号
伊豫豆比古命神社内

TEL

089-956-0321

FAX

089-956-3323

新年度の御挨拶

愛媛県神道青年会

会長 十亀博行



卷頭言

す。また、併せまして皆様のご寄稿もお待ちしております。

愛媛県神道青年会におきましては昨年度、再発足三十五周年を迎える各種神事・事業を行う中で、最大の事業でありました「愛媛の伝統文化IN道後」が、去る三月二十九日に開催する事ができました。詳細につきましては紙面内にて報告させて頂きますが、対外的に、また神社以外の会場にて各種団体を招き、不特定多数の方を対象とした事業を開催する事が初めての為、不手際や不行き届きの点が多々あつたと思います。しかしながら、この様な事業を進める中で「やつてみなければわからない」と言う事を痛切に感じる事ができました。色々と不安要素さて、会報「若竹」も今回、五十号の節目を迎えることとなりました。五十という数字を思います時に、昭和四十七年に再発足しました当会の歩みの深さを感じることが出来ます。会報はその時々の報告や告知をすることは勿論ながら、周年時に過去を振り返る重要な資料となります。今後も内容を充実させつつ広く会員に親しまれるような会報に致したく思っていますのでご協力よろしくお願ひ致します。

まず以て謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を御祝い申し上げ、各御社頭の御隆昌、皆様方の御多幸をお慶び申し上げます。さて、会報「若竹」も今回、五十号の節目を迎えることとなりました。五十という数字を思います時に、昭和四十七年に再発足しました当会の歩みの深さを感じることが出来ます。会報はその時々の報告や告知をすることは勿論ながら、周年時に過去を振り返る重要な資料となります。今後も内容を充実させつつ広く会員に親しまれるような会報に致したく思っていますのでご協力よろしくお願ひ致します。

上記の次第です。反省点としては六曜を確認せず日程を先に決定したため、土曜日の大安だったと言う事でしょうか。そ

の点につきましてはお詫び申し上げる次第です。

今回の三十五周年事業を終えるに当たり、これで満足するのではなく前を見据える事、四十周年に向けた第一歩である事をこれから当会を担う若手青年会員に伝えたいと思います。

そして、二年目を迎える今年度は「会員相互の交流」を目的として進めて行きたく思っております。具体的に何を行うかにつきましては、総会研修会への参加促進は勿論ではありますが、親睦交流の場であり今回が五回目を数える「野外体験親睦会」に力を注いで参ります。過去四回は四万十川でのカヌー、高知県大月町での海体験、靈峰石鎚山への登拝を行つきました。この親睦会は気軽に楽しみながら会員の繋がりを深めるものと考えております。全行程参加でなくとも少しでも顔を見せて頂きたく思っていますので、会員の皆様是非ご参加下さい。(詳細は会報内をご覧下さい。)

また、昨今の世情を思います時に、「絆(きずな)」と言う言葉が忘れられている感が致します。先日もあるテレビを

見ていましたら、「家族と過ごす時間が少ない」「子供のしつけができるいない」と思っている家庭は八九割を越す現状があるそうです。また「子供と食事を一緒にする」と答えた親は三割に満たないと言う事でした。地域社会の弱体化・核家族・共働きが言われて久しいですが、昨今のテレビ新聞を賑わす凄惨な事件の基はこの辺りにあるのではないかと思えます。このことを打開する事は容易な事でないかも知れませんが、まずできる事ではないかも知れませんが、まずできる事は家族内・地域内での「挨拶」をする事、「感謝の心」を持つ事ではないでしょうか? 「おはようございます」「ありがとうございます」というございます」また、「いただきます」「ごちそうさまでした」この一言で良いと思います。道徳や躰、また地域の繋がりが薄れている昨今、「挨拶」と「感謝の心」が心の架け橋になつてくれると思思います。私もこのことを胸に本年一年間を邁進していきたく思つております。

結びに当たり、御社頭の御隆盛と皆様方の御健勝をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。



新年正式参拝・互礼会報告

去る一月二十四日。午後一時より、愛媛縣護國神社に

於いて、恒例の新年正式参拝が行われ、十亜会長以下十四名が

参列。清々しい境内にて、年頭にあたり感謝の誠と共に、國の

隆昌と平和を心静に鎮まります
護國の英靈にお祈り致しました。

準備した方眼紙・オリエンテーリング用コンパス等を用いて、家相を判断する上で大切な中心の取り方・家相表の見方等を御指導いただきました。

受講した参加者は、社務にて氏子・崇敬者よりの問い合わせの中でも身近な事柄だけに真剣に聴講し、不明な点は積極的に講師に質問をされていました。

研修会終了後、懇親会が催され、神社府長・長曾我部延昭様をはじめ十二名の来賓の方々の御臨席を賜り、終始会員との和やかな雰囲気の中で交流・親睦を深められました。

(柳部 浩之)

午後四時より、兵庫県は淡路島・草香八幡神社 宮司 山崎真義先生をお迎えして「家相学」の新年研修会が行われました。同研修会には、御来賓・女子神職会・青年会会員三十五名が出席。約二時間の研修でしたが、まず家相学について、家屋に適さない土地の条件・方位と家の間取りとの関係等、基本的な解説のあと、



愛媛県神道青年会

第十回慰問神樂

去る二月二十八日、伊予郡砥部町にございます、砥部町立麻生幼稚園に於いて、恒例の慰問神樂が開催されました。

今回も南予伊予神樂並びに伊豫豆比古命神社巫女の皆様の協力を得て五演目を披露させていただきました。

まず、伊豫豆比古命神社の巫女二名による「悠久の舞」が披露され、初めて見る巫女舞に「ワ〜ツ」つという歓声をあげ見入っていました。

次に、南予伊予

神樂による「弓の舞」です。迫力のある太鼓と高らかな笛の音に圧倒されつつ、放たれた矢を目で追つて見る姿が印象的でした。

「越天樂」演奏
後の楽器紹介で
は、初めて見る雅



つていました。

次第は終盤、「豊采の舞」では二度目の巫女の登場にニコニコの園児たち。

最終演目の「大蛇の舞」では鬼役に果敢に挑んだ園児たちが、席に戻る度に胸を張り、武勇伝を日々に自慢していました。

普段雅樂を耳にすることが極めて稀な

樂器に目を輝かせ、清家理事の「ひなまつり」の龍笛の音色にあわせて合唱したり、十亀会長の「アンパンマン」の独奏では「これ知つとる」と声を上げて歌

つけていました。

古来からの伝統文化は、異文化の乱入や核家族化、生活環境の激変などにより失われつつあります。然し乍このように気持ちで園を後にしました。

昨今、非常に貴重な体験をしたと園長から御礼がありました。さらに嬉しいことに「次はいつ来る?」という園児の声に、活動の成功を喜びつつ、一同清々しい気持ちで園を後にしました。

世代への伝統文化継承の足掛りとなり、更には

純然たる日本人の礎への道標となることを祈念して止みません。

(池田丈志)



愛媛の伝統文化——道後

愛媛県神道青年会

平成二十年三月二十九日土曜日に、道後温泉本館前に於いて愛媛の伝統文化Ⅰ道後を開催いたしました。愛媛県神道青年会再発足三十五周年の本年は神事、

各種行事を無事に執り納めており締めくくりの最大の事業となりました。今回、愛媛県の観光の中心地である道後温泉本館前に於いて愛媛県に伝わる伝統文化を継承する五つの団体にお集まりいただき県内の伝統文化に関心を寄せ、伝承して来た重要性を感じていたとき地域の心の輪愛の育成に繋がればと、県内

の方だけでなく県外の多くの人々の集まる道後の地に於いて開催いたしました。当日、青年会会員は午前十時三十分に現地に集合し打ち合わせの後、設営準備に取り掛かり、音響設備・緋毛氈・椅子・演題看板等の設営を行っていきました。設営の後は道後温泉駅前や商店街でビラを（さあ、みんな道後において、神楽に獅子舞始まるよ。と書かれた）一人一人に手渡しで配つて歩きました。これまで、約一年前より計画、準備してきた今回の事業がいよいよ始まるんだと、ひしひしと感じながら準備に取り組みました。

午後三時、大きな太鼓の音と威勢のいい掛け声を合図に、いよいよ開演となりました。演目は、久万高原町の石鎚天狗太鼓、宇和島市の伊豫神楽かんなぎ会の神楽（弓の舞）、松山市の古三津虎舞保存会の虎舞、大洲市長浜町の伊予長浜豊年踊り、伊予神楽かんなぎ会の継ぎ獅子の順で演じられて行きました。

（石鎚天狗太鼓）は石鎚山の天狗伝説を元に創作されたもので平成元年に地元の有志によつて設立されました。靈峰石鎚に対する敬意や尊敬に由来するお山開き、御神体、筏流し、石錘風で構成され

ています。「伊豫神楽かんなぎ会」は南予地方に鎌倉時代以前より現在に伝わる神楽で、男性の神主だけで奉仕され神樂全体が神事という特徴をもつています。今回は〈弓の舞〉と〈神体鉏女之舞〉を演じて頂きました。（古三津虎舞保存会）の〈虎舞〉は松山城を築城した加藤嘉明の朝鮮出兵の折の虎狩の模様を演じるもので、鐵砲を構えた鎧武者が口上を述べ立ち回りの末に虎を撃ちとる様子を演じたものです。〈伊予長浜豊年踊り〉は冬から春にかけて肱川あらしの洗礼とともに受ける長浜の苦しい農民の暮らしに、明るく楽しいものを持ちたいと、苦心を重ね作られたもので、田植えから年貢納めまでの農作業の様子を明るいリズムとユーモアたっぷりに演じます。（宮脇獅子保存会）は今治地方の春祭りで奉納される獅子舞で、人が人の上に乗り人の柱を作る立ち芸です。神宮に伝わる大人の肩の上に獅子頭を被つた大人が乗り、舞を舞う代々神楽の流れをくむとされ、約三百年前に伝わつたとされています。

大きな大きな太鼓と多くの人の組み合われの勇壮な太鼓の音色に感嘆し、妖艶な舞に魅せられ、遙か戦国の世の出来事に思いを馳せ、ユーモアあふれる演技に笑い、道後温泉本館屋根にそのまま乗りました。

見ている者皆が食い入るように見入つていて、時間が経つほど観客の方の人数が膨れ上がつていったので通行帯と観客席とを分けるガードマンの役割を果たしていった青年会会員の数が足りないくらいの状態でした。一番心配していた当日の天候ですが日が暮れるまで徐々に雲が多くなりましたが、雨も降り出さずに演目を終える事が出来ました。

今回の事業には愛媛県神社庁、（財）まちづくり市民財團、道後温泉旅館協同組合、道後商店街振興組合、南海放送、テレビ愛媛、愛媛新聞の後援を頂き、又、地元の伊佐爾波神社宮司野口光比古様にも多大なるご助成いただきました事を厚く御礼申し上げる次第であります。青年会だけの力だけではなく、ご出演頂いた各団体、後援頂きました各団体や地元の皆様そして、会場に足を運ばれた観客の皆様のすべての力が集まつたからこそ「愛媛の伝統文化IN道後」を無事執り納める事が出来たのだと思思います。関係者の皆様、ありがとうございました。

（玉井 秀行）



愛媛県神道青年会 愛媛の伝統文化IN道後





神道青年全国協議会 平成十九年度中央研修会

平成二十年三月四日から五日にかけ、平成十九年度神道青年全国協議会中央研修会が、千葉県幕張市のホテルニュー オータニ幕張にて開催されました。「日本人の命脈」～つなげよう生命、伝えよう使命～を演題に、第一講元衆議院議員

講は明星大学教授の高橋史朗先生による「人間力を育てる和文化教育、親学のすすめ」の御三方による三部構成の研修会でした。

まず、第一講目の森田健作先生の講演では、子供時代、芸能界時代、議員時代とご自身の様々な困難を乗り越えられたのは両親の教えがあつたからこそとの内容を俳優らしく芝居の様に熱く講演してくださいました。

そして、第二講の鈴木中人先生の講演では、ご自身の長女をわずか六歳にして小児がんで亡くなられたまでの闘病生活、その経験を通じて命の大切さ、生きることの意味を親の立場で語ってくださいました。

二日目の高橋史朗先生による第三講では、社会問題にもなっている教育について、子供の教育、子供を育てる親の教育の必要性、また、睡眠時間、食生活などの習慣の崩れが及ぼす日本文化の消滅、家族崩壊を脳科学など科学的な内容をふ

まえながら解りやすく講演してくださいました。

この御三方による講演により、親から子、子から孫へと受け継ぎ伝えられてきた伝統、文化、またその中で育まれてきた家族、地域の絆、それによつて支えられる社会道徳の大切さや

必要性、また、「日本人の命脈」を伝える使命を改めて実感させていただきました。

(宇都宮 宗平)



第三十七回

定期総会報告

去る五月七日（水）、国際ホテル松山に於いて平成二十年度第三十七回定期総会が午後五時定刻より、十九名の会員の出席（委任二十七名）にて開会されました。

十亀会長の挨拶の後、議長が選出され議案審議に移り、議案である平成十九年度会務報告・再発足三十五周年に関する件の報告・会計報告・監査報告がなされ、



また平成二十年度の活動計画案・予算案が審議され、特に平成十九年度は、本会再発足三十五周年を記念した事業が行われ、それに関する活動や予算を十亀会長が詳細に報告され、総ての議案において慎重に審議を重ねた結果、全会一致で承認され無事閉会致しました。

総会の後、ご来賓の方々の御出席を賜り懇親会が催されました。長曾我部延昭府長にお言葉を戴き、その中で映画「靖国」の問題についてお話され、このような問題がある中での青年神職たち若い力の重要性をお話いただきました。また、愛媛県護國神社・波爾莊宮司より信念と情熱を持つことの大切さをお教えいただきました。

しかしながら、本会の出席者数は年々少なくなり、残念ながら諸先輩がたの期待に応えるだけの連帯感が足りていらないのが現状であろうかと思われます。

この第三十七回定期総会を皮切りに新年度の活動が行われますが、諸先輩方が築き上げたことを譲り、思いに添えるべく、そしてなによりも日本をより良くするための一歩となす為にも、より多くの方に積極的に本会の活動に足を運んで頂きたいと思っております。

(三輪田尋道)



偶然にも、隣の会場で壮行会を開いていた、加戸愛媛県知事夫妻と、愛媛県アマチュアレスリング協会会长 森高県議会議員、又、北京五輪代表レスリングの松本慎吾選手にご臨席賜り、ご挨拶を賜る。

皇學館大学

教授 新田 均先生

演題

「首相の靖國参拝をめぐる

近隣二国の思惑

(十亀副庁長他御来賓聴講者十四名)

懇親会

【国際ホテル 常磐東の間】

第二講 講師

靖國神社 権宮司

山口 建史 先生

演題

【靖國神社の本質について】

(十亀副庁長他御来賓聴講者九名)

○神道青年四国地区協議会

会員出席者数

岡田会長以下四十五名参加

○愛媛県神道青年会

会員出席者数

十亀会長以下二十三名参加

第四回野外体験親睦会 石鎚山

登拝

【西条市 石鎚山】

(十亀会長以下会員九名参加)

平成十九年度 神道青年全国協議会

第一講講師

【神社本庁】

{二八日}

{二七日}

{一八日}

{八日}

八日

研究室長 平松 茂雄 先生
演題
【尖閣諸島を含む南方の防衛

ラインの現状に関する】

(十亀会長以下十名出席)

第二十五回観月神楽のタベ

【西予市野村町鎮座 三嶋神社】

宮司 和氣 利雄 様】

(十亀会長以下二十七名参加)

【海の安全保障】

第三講講師
日本政策研究センター

研究員 濱口 和久 先生

演題
【国防とは：竹島問題と対朝鮮半島防衛に関する】見学研修
—防衛省—

※記念館 厚生課 広報展示室等

※靖國神社正式参拝

(十亀会長以下五名出席)

一〇月二四日 第六回役員会 【南予 和靈神社】

(十亀会長以下九名出席)

一一月 五日 愛媛県神社庁定例協議員会

(十亀会長出席)

【中予 伊豫豆比古命神社】

(十亀会長以下十二名出席)

全 第二回勉強会 —全—

(十亀会長以下十三名出席)

演題【講話研修】

二二日 第七回役員会

(十亀会長出席)

【高知県横倉神社】

(十亀会長以下五名参加)

神道青年四国地区協議会

第二回役員会

(十亀会長以下三名出席)

第一講講師

元防衛庁防衛研究所

全 第五回役員会 【東予 石鎚神社】

(十亀会長以下九名出席)

第二十五回観月神楽のタベ

【西予市野村町鎮座 三嶋神社】

宮司 和氣 利雄 様】

(十亀会長以下三名出席)

【海の安全保障】

研究室長 平松 茂雄 先生
演題
【尖閣諸島を含む南方の防衛

ラインの現状に関する】

(十亀会長以下十名出席)

第二十五回観月神楽のタベ

【西予市野村町鎮座 三嶋神社】

宮司 和氣 利雄 様】

(十亀会長以下二十七名参加)

【海の安全保障】

研究室長 平松 茂雄 先生
演題
【尖閣諸島を含む南方の防衛

ラインの現状に関する】

(十亀会長以下十名出席)

【高知県横倉神社】

(十亀会長以下五名参加)

神道青年四国地区協議会

第二回役員会

(十亀会長以下三名出席)

第一講講師

元防衛庁防衛研究所

第二回役員会

(十亀会長以下三名出席)

第一講講師

元防衛庁防衛研究所

愛媛県神道青年会 平成19年度一般会計歳入歳出決算書

自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日

歳入の部

単位：円

項目	予算額	決算額	増減(△減)	付記
1 会費	600,000	560,000	△40,000	年会費・新年研修会並びに互礼会々費
2 助成金	200,000	200,000	0	愛媛県神社庁助成金
3 寄付金	1,300,000	1,593,000	293,000	県内神職寄付金・諸事業助成金
4 雑収入	160,437	889,519	729,082	神青協事業還付金・事業収入(床几頒布)
5 繰越金	689,563	689,563	0	平成18年度より
歳入合計	2,950,000	3,932,082	982,082	

歳出の部

単位：円

項目	予算額	決算額	増減(△減)	付記
1 会議費	500,000	428,070	△71,930	役員会・新年互礼会
2 研修教化	675,000	902,531	227,531	観月神楽・慰問神楽・新年研修会・各種研修会参加助成費他
3 事業費	600,000	840,000	240,000	初詣啓発ポスター作成費・床几作製費
4 広報費	320,000	336,960	16,960	若竹47号／48号／49号作成費及び発送費
5 事務費	120,000	120,446	446	事務用品・寄付金其の他振替手数料
6 備品費	10,000	0	△10,000	
7 旅費	300,000	300,000	0	神青協出向補助費
8 慶弔費	50,000	26,520	△23,480	慶弔費・電報費
9 分担費	290,000	274,000	△16,000	神青協及び地区協賛出金・各種友好団体年会費
10 交通費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑支出	10,000	303,150	293,150	再発足特別会計へ繰入「まちづくり人-応援助成金」
12 予備費	25,000	0	△25,000	
歳出合計	2,950,000	3,581,677	631,677	

歳入合計 3,932,082 円

歳出合計 3,581,677 円

差引残高 350,405 円

平成20年度に繰越

愛媛県神道青年会

会長 十亀 博行 提出

平成20年4月7日

上記の通り相違ない事を認めます

平成20年4月7日

監事 和氣省一
監事長曾我部昭一郎

愛媛県神道青年会 平成20年度一般会計歳入歳出予算書

自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日

歳入の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付記
1 会費	600,000	800,000	200,000	年会費・定期総会費・新年互礼会々費・監査会慰労会費
2 助成金	200,000	200,000	0	愛媛県神社庁より
3 寄付金	1,300,000	1,300,000	0	県内神職寄付金・諸事業援助金
4 雑収入	160,437	349,595	189,158	神青協事業還付金・事業収入
5 繰越金	689,563	350,405	△339,158	平成19年度より
歳入合計	2,950,000	3,000,000	50,000	

歳出の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付記
1 会議費	500,000	750,000	250,000	定期総会・役員会・新年互礼会・地区協役員会・監査会他
2 研修教化	675,000	550,000	△125,000	観月神楽・慰問神楽・新年研修会・各種研修参加助成他
3 事業費	600,000	555,000	△45,000	初詣啓発ポスター・床几頒布事業
4 広報費	320,000	250,000	△70,000	若竹50号／51号作製費及び発送費
5 事務費	120,000	120,000	0	事務用品・寄付金其の他振替手数料
6 備品費	10,000	10,000	0	
7 旅費	300,000	360,000	60,000	神青協総会・神青協役員旅費補助
8 慶弔費	50,000	40,000	△10,000	慶弔費・電報代
9 分担費	290,000	280,000	△10,000	神青協及び地区協賛出金・各種友好団体年会費
10 交通費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑支出	10,000	10,000	0	
12 予備費	25,000	25,000	0	
歳出合計	2,950,000	3,000,000	50,000	

歳入合計 3,000,000 円 岁出合計 3,000,000 円 差引残高 0 円

平成20年4月16日

愛媛県神道青年会役員会提出

平成二十年度 活動計画

●その他、役員会にて議案審議了解

金	壹萬圓也
八幡神社	波賀部神社
勝岡八幡神社	日尾八幡神社
東雲神社	金刀比羅神社
三島神社	三島神社
三島神社	三島神社
神社序	若宮八幡神社
天満神社	築鳥神社
阿沼美神社	阿沼美神社
住吉神社	金刀比羅神社
八坂神社	天一稻荷神社
新田神社	新田八幡神社
立石神社	伊曾能神社
客王神社	金參阡圓也
金	式阡圓也
素鷺神社	

水地	二神	武市	都築	都築	都築	都築	都築	都築	大谷	大内	武智	渡部	三好	山下	小野
	明彦	通訓	盛幸	芳憲	芳憲	芳憲	芳憲	芳憲	辻田	正明	純二	仲二	捷三	幸志	武智
	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	信磨	成保	殿	俊次	高市	武智
										成保	殿	殿	啓	逸知	三輪田

金	七萬圓也	金	式萬圓也
和靈神社		神社序	
參萬圓也		神社序	
神社序		神社序	
金	老萬圓也	金	老萬圓也
神社序		神社序	
宇和島支部	宇和島市分会	八西支部	八幡浜分会
宇和島支部	宇和島市分会	大洲喜多支部	殿
宇和島支部	宇和島市分会	是沢	美久雄殿
宇和島支部	宇和島市分会	田中	清之殿
宇和島支部	宇和島市分会	井上	正博殿
宇和島支部	宇和島市分会	森本	隆夫殿
宇和島支部	宇和島市分会	和氣	利雄殿
宇和島支部	宇和島市分会	高市	節子殿
宇和島支部	宇和島市分会	上甲	一則殿
宇和島支部	宇和島市分会	大川	實殿
宇和島支部	宇和島市分会	清家	貞宏殿
宇和島支部	宇和島市分会	宮本	稚秋殿
宇和島支部	宇和島市分会	松浦	正樹殿
菊池	石村	聖殿	
國興			
殿			

金 一萬圓也	石鎧神社	愛媛県神社庁 殿
伊豫豆比古命神社	長曾我部延昭殿	菊地 宣之 殿
石鎧神社	十龟 興美 殿	波爾 莊 殿
三島神社	出邊 捷 殿	井上 眞鍋 殿
愛媛縣護國神社	菊地 宣之 殿	眞鍋 和敏 殿
熊野神社	十龟 興美 殿	阿部 康茂 殿
伊曾乃神社	波爾 莊 殿	柳原 清家 殿
大宮八幡神社	出邊 捷 殿	武智 貞宏 殿
八幡神社	井上 眞鍋 殿	正人 幸 殿
嚴島神社	菊地 宣之 殿	豊孝 殿
石鎧神社	十龟 興美 殿	正宜 殿
伊豫豆比古命神社	波爾 莊 殿	暢廣 殿
伊豫稻荷神社	出邊 捷 殿	吉田 充邦 殿
高忍日賣神社	井上 眞鍋 殿	一弘 殿
三島神社	菊地 宣之 殿	田内 康人 殿
朝日八幡神社	十龟 興美 殿	一宮 殿
三島神社	波爾 莊 殿	公和 殿
加茂神社	出邊 捷 殿	殿
東京都	井上 真鍋 殿	殿
龜戸浅間神社	菊地 宣之 殿	殿
御田村	十龟 興美 殿	殿
俊一	波爾 莊 殿	殿
愛媛県女子神職会	出邊 捷 殿	殿
池内	井上 真鍋 殿	殿
一宮	菊地 宣之 殿	殿
公和	十龟 興美 殿	殿
殿	波爾 莊 殿	殿

【愛媛の伝統文化】N道後

金・式萬圓也

大井八幡大神社

櫛部 浄文 殿

金・壱萬圓也

伊豫豆比古命神社

長曾我部延昭殿

嚴島神社

柳原 宰 殿

金・伍阡圓也
客王神社

二神 良昌 殿

青年会御卒業

定時総会に於いて、会則により

卒会の年を迎えた先輩方をご紹介致します。

御賛同の上、
御寄附賜り深謝致します

会長 十亀博行

他会員一同

第二十五回観月神楽の夕べ 御祝

金・壱萬圓也

愛媛県神社庁殿

長曾我部延昭殿

和氣 利雄 殿

新年互礼会 御祝

金・式萬圓也

十亀 興美 殿

清家 貞宏 殿

石鎚神社

菊地 宣之 殿

八幡神社

波爾 莊 殿

伊豫豆比古命神社

長曾我部延昭殿

三島神社

菊地 宣之 殿

愛媛縣護國神社

井上 千賀司 殿

伊曾乃神社

柳原 宰 殿

嚴島神社

眞鍋 純生 殿

大宮八幡神社

和敏 殿

松山支部支部長

正宜 殿

伊豫豆比古命神社

田内 一弘 殿

高忍日賣神社

後藤 豊孝 殿

朝日八幡神社

眞鍋 純生 殿

愛媛県女子神職会
詳細な内容、日時等につきましては、
HP等で隨時お知らせして参ります。

勉強会のご案内

愛媛県神道青年会では、今年度も、青年神職の更なる研鑽のため、東予・中予・南予の三地区で勉強会を開催します。夕方からの開催を予定しておりますので、日頃、なかなか会の活動に参加できない会員の皆様も、気軽にご参加下さい。

平成二十年度 第一回勉強会

(日時) 六月十七日(火曜日・赤口)

十九時

(場所) 八幡浜市鎮座 八幡神社

和靈神社 権楠宜(元理事)

大山祇神社 権宮司 和田正成様

石鎚神社 権楠宜

高家八幡神社 宮司 上村修一様

都子野 清明様

三島安詔様

高家八幡神社 宮司

都子野 清明様

高家八幡神社 宮司

永年に亘り当会の活動にご尽力賜りまして誠に有難う御座いました。会員一同感謝申し上げます。

今後も尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう御願い申し上げますと共に益々の御活躍を御祈念申し上げます。

～愛媛県神道青年会主催～
『第5回野外体験親睦会 in 佐田岬』

【とき】 平成20年8月20日(水) 友引～21日(木) 先負

【ところ】 愛媛県西宇和郡伊方町

【趣旨】 大自然にふれ、会員相互の親睦はもとより、会員の家族子弟を含めた親睦を深めることを目的とする。

【参加資格】 愛媛県神道青年会役員・会員・OB、またその家族・子弟、当県神社界に携わる者。

【概要】 **8月20日** 集合時間：午後4時を自安に随時集合
 集合場所：瀬戸アグリトピア 住所：愛媛県西宇和郡伊方町大久
 電話 0894-53-0002
 H P <http://www.town.ikata.ehime.jp/kankou/>
 宿泊施設：バンガロー（1棟8人）にて宿泊

8月21日 海水浴：午前9時～
 場所：ムーンビーチ海水浴場 住所：愛媛県西宇和郡伊方町井野浦
 （宿泊地より車で20分程度）

【注意事項】 会費を超える予算の取り扱いについては参加者全員での分担となります事をご理解下さい。尚、開催地までの交通費は自己負担となります。

【必要経費】 参加費未定 目安は 大人1人 4,000円 小学生以下1人 1,000円

【その他】 愛媛県神道青年会主催ではありますが参加者全員で作り上げる行事ですので皆様の寛大な心でのご協力をお願い申し上げます。

【参加申し込み】 締め切り日は7月20日とします。出来るだけ早めにお願いします。
 下記のFAX用紙にてお申し込み下さい。

FAX 0894-54-0849 阿部茂之

【お問い合わせ】 愛媛県神道青年会 広報部会長 阿部茂之 090-9555-1689

※ 台風、災害等、安全確保出来ない状況の場合は中止とさせていただきます。

※ 当日の備し物は、バーベキュー、花火、手作り流しそうめん等、計画しております。その他リクエストがございましたら、申し込み用紙にお書き添え下さい。

平成20年度 愛媛県神道青年会 第5回野外体験親睦会in佐田岬 参加申込書

申込日 平成 年 月 日

代表者住所	(〒 -)					
	愛媛県					
携帯電話番号						
代表者 氏名		男 女	昭和 平成	年	月	日生
ふりがな 氏名		男 女	昭和 平成	年	月	日生
ふりがな 氏名		男 女	昭和 平成	年	月	日生
ふりがな 氏名		男 女	昭和 平成	年	月	日生
ご意見 ご要望						

＜申込先＞ 愛媛県神道青年会 広報部会長 阿部茂之 FAX 0894-54-0849

手作り盛塩器



(注・写真の高杯は下記価格に含まれません)

材質	砥部焼
形状	△方(三角錐)
寸法	大 底部直径約5.5cm×高さ6.5cm 小 底部直径約4cm×高さ5cm
色	白色、塗仕上げ

「愛媛県神道青年会」の文字入り(透彫)

頒布価格 大小各1,000円 ※当品は着払いにて発送させて頂きます。

窯元紹介
窯元
作者
窯元紹介
窯元
西岡秀典氏
手ろくろ成形一級技能士
えひめ伝統工芸士
伝統工芸士(成形部門)
発注先
愛媛県松山市居相二二二一
伊豫豆比古命神社内
愛媛県神道青年会事務局



出産報告



会長 十亀 博行・利江 夫妻

平成二十年三月八日

目出度く、長男
慶彦(よしひこ)君
が誕生致しました。
健やかなる御成長
をお祈り申し上げま
す。



今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しく
お願い申し上げます。

私たち、去る五
月十日、伊豫豆比古
命神社神前に於い
て、長曾我部宮司様
に仲執り持ちを頂
き、結婚の儀を執り
行いました。

なにぶん若輩者で
すが、神職としてよ
り一層、努力致しま
す。

会員各位が気軽に参加できる行事等を考え
て、本会の命題であります『広く新規会
員を獲得する』ことに繋がればと考えて
おります。会長を中心に役員一同、心を
一つに力を合わせて身も心も研鑽してい
く所存でございますので、御指導・御鞭
撻の程宜しくお願い申し上げます。

熊野神社 福宣 田邊 宗興
眞里

結婚報告



【編集後記】

今号は、「若竹五十号」ということを
記念し、予算を奮発しカラーにさせて頂
きました。冒頭の会長挨拶にもございま
したように、昨年度は「愛媛県神道青年
会 再発足三十五周年」ということで、
様々な記念行事を進めて参りましたが、
皆様のご支援・ご協力を賜り、滞ること
無く執り納めることができました。今年
度は、「会員相互の交流」ということで、
会員各位が気軽に参加できる行事等を考
え、本会の命題であります『広く新規会
員を獲得する』ことに繋がればと考えて
おります。会長を中心役員一同、心を
一つに力を合わせて身も心も研鑽してい
く所存でございますので、御指導・御鞭
撻の程宜しくお願い申し上げます。

【訂正とお詫び】

【会報 若竹】第四十九号(平成二十年
一月一日発行)「三島森田両烈士追悼慰靈
祭」において、「昭和四十三年」とありま
すが、正しくは「昭和四十五年」です。
ここに謹んでお詫び申し上げますこと
もに訂正致します。